

金城学院大短大 ○益田貴美子  
佐藤 貞子  
岩瀬 ひろ

1. 幼児の既製服メーカー10社寸法の不備不統一の現状にかんがみ、幼児の体型に適した衣服寸法を設定する目的で身体計測を行なった。

2. 資料は名古屋市内に在住する4～6歳の健康な男児118名、女児115名で、計測は昭和42年6～7月に行なった。研究項目は、身長・下肢長・股高・袖丈・背肩幅・胸囲・腹囲・頸付根囲・上腕最大囲・大腿最大囲・体重の計11項目である。平均値ならびに対身長・対胸囲・体対重の相関係数を算出し、考察を試みた。

3. 主な成果はつぎのようである。

(1)男女11項目とも平均値は、加齢に従い増加するが、増加量は長径項目で著しい。3年令にわたり女児が上まわっている項目は腹囲・大腿最大囲の2項目である。その他の項目では3年令にわたり男児が優れている。

(2)衣服寸法設定のために3年令を一括した場合の相関係数については、身長に対する相関の高い項目は、長径3項目ならびに体重である。胸囲に対して相関の高い項目は、周径4項目と体重である。従って体重は長径項目・周径項目ともに高いので、衣服寸法を設定するための重要な項目である。